

研究・調査報告書

報告書番号	担当
151	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Identifying factors that increase the likelihood of driving after drinking among college students. 大学生における飲酒運転の可能性を増加させる要因の同定	
執筆者	
LaBrie JW, Kenney SR, Mirza T, Lac A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Accid Anal Prev. 2011 Jul;43(4):1371-7.	
キーワード	
アルコール, 運転, 飲酒, 命令的規範, 期待	
要旨	
目的: 大学生における飲酒運転(DAD)は、他の年代や同年代の大学生以外の者に比べて、重大な公衆衛生課題である。	
方法: 対象は2施設の大学生3753人(女性65%, 白人58%)とし、飲酒運転の潜在的な予測因子について調査を実施した。	
結果: 回答者の19.1%が3杯以上の飲酒後に運転し、8.6%が過去3か月に5杯以上の飲酒後に運転した。ロジスティック回帰モデルを用いた解析の結果、男性、男子寮生または女子寮生、アルコール依存症の家族歴がある、中等度または多量飲酒者(少量飲酒者に比べて)、飲酒運転の自己承認、性的および攻撃性へのアルコールへの期待が、独立して飲酒運転に関連していた。	
結論: これらの結果は、大学生の飲酒習慣について現在の理解をさらに広げ、予防戦略の意味を提供した。またリスクの高いサブグループをターゲットに加え、飲酒運転の自己承認とアルコールに関連した期待(特に攻撃性とセクシュアリティに関連するもの)の両方の低下に焦点を合わせた、飲酒運転に関する介入を方向づけることができるかもしれない。	